

「悪石島学園のボゼ伝承活動の取組」

1. 学校名	十島村立悪石島学園
2. 学年・人数	前期課程生（1年生 1人、2年生 2人、3年生 1人、4年生 1人、5年生 3人、6年生 1人） 後期課程生（7年生 2人、8年生 1人、9年生 3人）
3. 日時・場所	(1) 練習の日時・場所 ・ 盆踊り 令和6年8月15日（木） 悪石島公民館 ・ ハッパン大将 令和6年8月16日（金） 悪石島学園集会室 (2) 発表の日時・場所 ・ 盆踊り 令和6年8月16日（金）～19日（月） テラ庭～コミュニケーション前広場～ ・ ハッパン大将 令和6年8月19日（月） コミュニオン前ステージ
4. 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事、伝統工芸品について	(1) 名 称 国の重要無形民俗文化財，ユネスコの無形文化遺産 悪石島のボゼ（あくせきじまのぼぜ） (2) 由 来 ボゼは盆の終わりに現れ、盆行事の幕を引くことで、仏を拝む盆行事に熱中した人々を、太陽の輝く日常の力強い新たな生の世界へ引き戻し、転換させ甦らせる役目をもつとされる。ボゼは、体中や持っているマラ棒の先端に付いた赤土を人々に擦り付ける。ボゼには、盆時期に先祖の霊とともに現世にやってくる悪霊を追い払い、幸をもたらすとされる。 (3) 構成等 旧暦7月16日の夜から数日間にわたって、男性（小学生の女子も含む）のみがテラに集まり、現在復元されている3種類の盆踊りのうち、時と場所によって決まった踊りを奉納する。ボゼが現れる当日は、テラ庭から墓下、コミュニケーション前広場へと移動して踊り、島民による口上が述べられた後、呼び出しと太鼓の音に導かれて3体のボゼが出現する。ボゼが帰った後、最後の踊り（ニワモドシ）が奉納される。また、盆踊り終了後には、子どもたちによる「ハッパン大将」という伝承芸能が披露される。
5. 文化財伝承・活用の取組において地域との連携や工夫した点等	盆踊りは、先祖の霊や神仏に奉納するものとされており、かつて多くの種類があったが、口伝のみで伝承されてきたため、現在では3つが伝承されているのみである。初めて参加する者は、盆踊りの輪の中に入り、年長の島民の踊り見ながら、見よう見まねで覚える。現在では「盆踊り保存会」が発足し、学校や子ども会も連携・協力しながら、唄われる歌詞の意味を確認したり、踊りの一挙手一投足について年長者が指導したりして、伝承活動に力を入れている。
6. 取組の様子（練習状況、発表の場等）	   テラ庭での盆踊り 仮面神ボゼ来訪 子どもたちによる「ハッパン大将」披露
7. 感想・意見（参加児童生徒・保護者・保存会・教員等）	・ 今年は、コロナ禍や悪天候によるツアー便の欠航などの影響がなかったため、大勢の観光客を迎えて、盛大に祭りが執り行われた。映像で見るのとは全く違う迫力に、観光客を含め、会場全体が大興奮に包まれた。 ・ 年間を通して「神行事」を大切にしている島民の思いが詰まった集大成の行事であり、島民が一体となってボゼ祭りを大切にする姿に感動した。